

政策番号	11	政策分野	大学
------	----	------	----

基本方針 悠久の歴史、伝統的な文化芸術、最先端技術等の京都の魅力とともに、「大学のまち京都」を発信し、国内外の学生をより多く受け入れ、先見性や創造性、卓越した指導力をもつ人材を育成する。また、集積された大学の知を新産業の創出や文化芸術の創造に生かすことにより、魅力と個性にあふれる「大学のまち・学生のまち」をめざす。

担当局	総合企画局
-----	-------

共管局	
-----	--

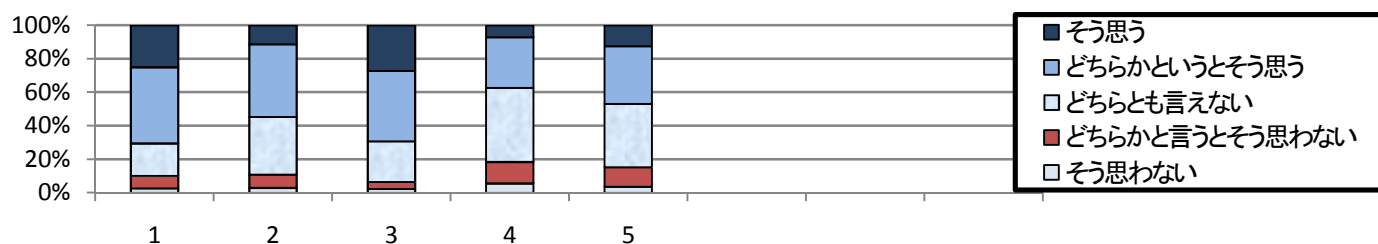
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年 度	年 度	23年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 市内の学生数が全国の学生数に占める割合(%)	4.6	5.0	-	-	4.6	4.6	4.6	100.0%	a
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価									a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	年度	23年度
1	京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。	-	-	a
2	京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。	-	-	b
3	京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。	-	-	a
4	学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。	-	-	c
5	大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。	-	-	b
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価				a



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	22	10.1%

3 総合評価

A	政策の目的が十分に達成されている		
	<p>【客観指標】・学生数の全国に占める割合は、大学の集積により、これまでからかなり高水準であり、前年度並みでa評価となった。</p> <p>【市民の実感】・学びの環境の良さと、大学の研究成果の高さについては、かなり肯定的な回答が多い。大学や研究分野での国際社会との人材交流や、大学の産業・雇用・地域への貢献についても、やや肯定的な回答が多い。「大学のまち」としてのイメージや、ノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏、iPS細胞の開発に成功した山中伸弥氏など、京都ゆかりの研究者が近年注目されたことなどの影響がうかがわれる。これらに対し、学生のパワーによるまちの活性化については、「どちらとも言えない」とする回答が多く、他都市に例を見ない人口の約1割に当たる学生のエネルギーを生かしていく余地がうかがわれる。</p> <p>【総括】・客観指標も市民の実感もa評価であり、「大学のまち京都」の強みが反映された結果となった。 ・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、十分に達成されていると評価する。</p>	年度	-
		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
1101	京都で学び、住み続けたい「大学のまち」の実現	-	-	A	131
1102	大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大	-	-	A	133
1103	学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現	-	-	B	135
1104	産業の振興と大学教育の充実に向けた産学公地域連携の推進	-	-	B	137

<今後の方向性>

・平成21年2月に策定した「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」に基づき、学生の確保に向けた学びの環境の充実、留学生等の飛躍的な増加に向けた広報・支援・交流、学生のエネルギーによる「京都力」の強化、産学公地域連携の推進による京都地域の活性化等に取り組むこととしている。

・「大学のまち京都」のシンボル施設である「キャンパスプラザ京都」を拠点として、今後さらに、京都ならではの講義や伝統文化に触れる機会等、京都で学ぶ魅力を高める必要がある。

政策名	11	大学
-----	----	----

指標名	市内の学生数が全国の学生数に占める割合 (%)
-----	-------------------------

担当部室	市民協働政策推進室	連絡先	222-3103
------	-----------	-----	----------

1 指標の説明

市内の大学・短期大学の学生数が全国の学生数に占める割合

2 指標の意味

「大学のまち京都・学生のまち京都」として、大学や学生の集積状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：文部科学省「学校基本調査」

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 4.6	平成32年度目標値 5.0	根拠 18歳人口が減少する中で、確保を目指す全国の学生に占める割合
------------------	------------------	------------------	--------------------------------------

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	4.6	4.6	増減なし	4.6	平成32年度目標値の達成に向け、当該年度に達成すべき数値	100.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	
----	--

5 評価基準

最新数値の単年度目標値に対する達成度が
 a：100%以上
 b：95%以上～100%未満
 c：90%以上～95%未満
 d：85%以上～90%未満
 e：85%未満

6 基準説明

- ・単年度目標値を達成すればa評価
- ・以下5%刻みでb～e評価

7 評価結果

		23
-	-	a